

平成 30（2018）年さけます来遊状況（第 3 報：10/31 現在）

1 カラフトマス来遊状況

国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 来遊数は 678 万尾 [前年同期比：551%、一昨年同期比：76%、平年*1 同期比：84%]
- 10 月末までの来遊数は、大きく低迷した平成 24（2012）年以降では、大幅に増加した平成 28（2016）年に次ぎ 2 番目に多い
- 全道で 1 億 4,943 万粒の種卵を確保

*1：平年とは、平成元（1989）～平成 29（2017）年の平均値

（北海道）

10 月 31 日現在、北海道のカラフトマス来遊数は 678 万尾 [前年同期比：551%、一昨年同期比：76%、平年同期比：84%] となっています。

10 月末までの来遊数は、大きく低迷した平成 24（2012）年以降では、大幅に増加した平成 28（2016）年に次ぎ 2 番目に多く、豊不漁年が逆転した平成 16（2004）から平成 22（2010）年までの偶数年に近い水準となっています（表 1 および図 1）。

来遊年	10/31現在	最終	来遊年	10/31現在	最終
2005(H17)	918	918	2006(H18)	559	559
2007(H19)	1,491	1,491	2008(H20)	704	704
2009(H21)	1,111	1,111	2010(H22)	731	731
2011(H23)	553	553	2012(H24)	221	221
2013(H25)	325	325	2014(H26)	158	158
2015(H27)	210	210	2016(H28)	890	890
2017(H29)	123	123	2018(H30)	678	-
平年			808	808	

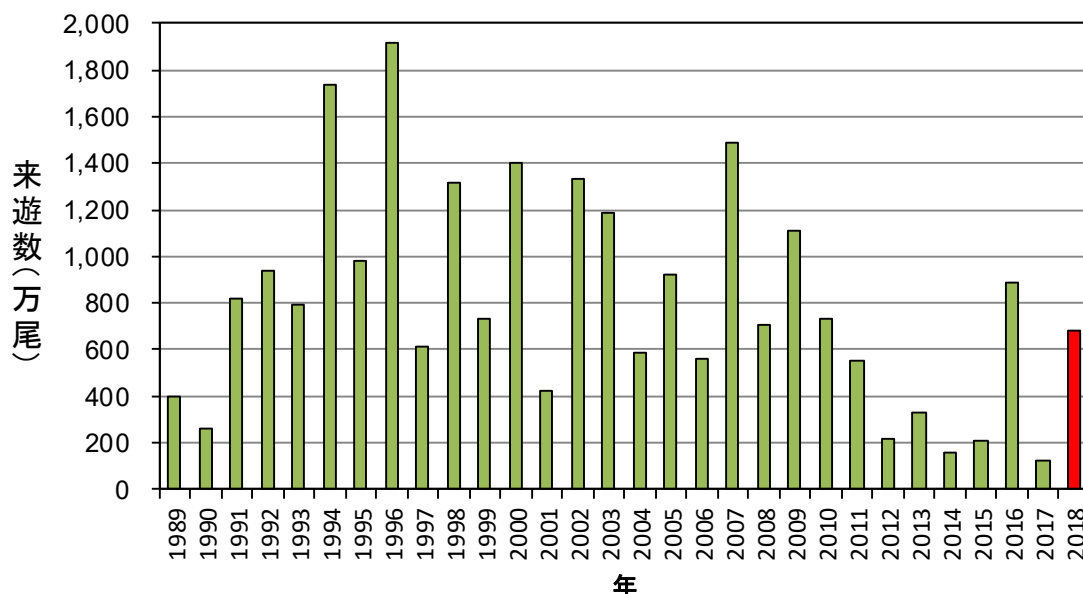


図 1. 7 月 1 日～10 月 31 日までのカラフトマス来遊数（累計値）。2018 年は速報値。

地域別にみると、日本海側（オホーツク海区および日本海区）では641万尾〔前年同期比：572%、一昨年同期比：77%、平年同期比92%〕、太平洋側（根室～えりも以西海区）では38万尾〔前年同期比：317%、一昨年同期比：66%、平年同期比34%〕と、両地域ともに一昨年よりは少ないものの、日本海側では平年並の水準まで回復しています。

本年の来遊のピークは、沿岸漁獲は8月下旬で昨年、一昨年と同じ、河川捕獲は9月中旬で昨年より2旬遅く、一昨年と同じとなっております。

河川捕獲数は92万尾〔前年同期比：511%、一昨年同期比：121%、平年同期比：108%〕と前年及び平年を上回りました（表2）。地域別では日本海側で88.7万尾と前年、平年ともに上回りました。一方、太平洋側では3.8万尾と前年の3倍程度の捕獲数となりましたが、平年の3割程度の水準にとどまっています。

採卵数については1億4,943万粒と、前年同期の112%を確保しました。これは本年の採卵計画数である1億7,290万粒の86.4%にあたり、日本海側では計画数を確保しましたが、太平洋側では計画数を下回ったため、全体として採卵計画数を下回りました。

本年の北海道のカラフトマスの捕獲採卵は10月で終了となっており、11月以降は沿岸でわずかに漁獲されるのみとなります。

捕獲年	10/31現在	最終	捕獲年	10/31現在	最終
2005(H17)	89	89	2006(H18)	94	94
2007(H19)	144	144	2008(H20)	92	92
2009(H21)	131	131	2010(H22)	87	87
2011(H23)	59	59	2012(H24)	26	26
2013(H25)	48	48	2014(H26)	26	26
2015(H27)	24	24	2016(H28)	76	76
2017(H29)	18	18	2018(H30)	92	92
			平年	85	85